

平成28年1月8日

西北地域県民局地域農林水産部長 殿
(申請者)

集団名 有限会社 ケイホットライス
〒037-0318
住所 青森県北津軽郡中泊町大字田茂木
字鳴見242-8
電話 0173-57-2243
氏名 代表取締役 荒関 敬悦 印

平成28年産青森県特別栽培農産物 生産流通計画承認申請書

青森県特別栽培農産物認証要綱第6の規定に基づき、関係書類を添えて申請します。

記

1 申請計画概要

区分	1	2	3	4
作物名	水 稻	水稻 (移植)	水稻 (直播)	
農薬等使用区分 農 薬 化学肥料	農不	節農5	節農5	
	化不	化5	化5	
生産者数 (人)	1	3	1	
栽培面積 (a)	1490. 8	2056.9	3813.4	
栽培ほ場数 (筆、棟数)	21	39	45	
生産量 (t、kg)	62.6 t	111.1 t	194.5 t	
出荷量 (t、kg)	62.6 t	111.1 t	194.5 t	

注) 農薬等使用区分は、「農不・化不」、「農不・化5」、「節農不・化不」
「節農5・化不」、「節農5・化5」と記載する。

2 関係書類

(1) 生産者等

生産者一覧表 (別紙1)、栽培責任者及び確認責任者届 (別紙2) のとおり

(2) 作物及び農薬等使用区分

作物・農薬等使用区分申請内容一覧表 (別紙3) のとおり

(3) 栽培ほ場所在地

ほ場位置図 (別紙4) のとおり

(6) 認証票の使用

認証票使用計画 (別紙7) のとおり

(4) 栽培管理

栽培管理計画 (別紙5) のとおり

(7) 情報提供

(5) 販売・出荷

出荷計画 (別紙6) のとおり

情報提供に関する承諾書 (別紙8) のとおり

(8) その他

(別紙2)

平成28年1月8日

西北 地域県民局地域農林水産部長 殿

(栽培責任者)
〒037-0318 住 所 中泊町大字田茂木字鳴見
242-8

電 話 0173-57-2243
氏 名 荒関 敬悦 印

(確認責任者)
〒037-0318 住 所 中泊町大字田茂木字鳴見

電 話 0173-57-2578
氏 名 坂本 浩二 印

40

平成28年特別栽培農産物 栽培責任者及び確認責任者届

青森県特別栽培農産物認証要綱第6の規定に基づき、特別栽培農産物の生産及び確認についてその責任者として届出します。

記

項 目	栽培責任者の概要	確認責任者の概要
1 職業及びその概要 組織に所属するものはその 所属と役職名等を記入	(有)ケイホットライス 代表取締役	専業農家 水稲と野菜栽培
2 特別栽培農産物栽培経験等	農薬・化学肥料不使用18年 農薬・化学肥料5割以下33年	農薬・化学肥料5割以下15年
3 認証申請者との関係	代表取締役	栽培および精米確認者
4 その他		

(別紙5)

平成28年産栽培管理計画

1 栽培作物及び場所

作物名	水稻	栽培面積	1490.8a
農薬等使用区分	農薬：農不	化学肥料：化不	

2 栽培管理

(1) 栽培管理計画

時期 (旬、日)	作業名	資材使用 の有無
9月	米ぬか散布 稲わら鋤きこみ	有
10月		
11月		
12月		
1月		
2月	種子消毒・種まき・育苗	有
3月	肥料散布・耕起 代掻き・田植え	有
4月		有
5月	機械除草 手取除草	
6月	畦の草刈り	
7月		
8月	稲刈・乾燥・調整	
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
計画生産量	62.6 t (420kg/10a)	
看板設置予定	6箇所	
栽培上の特記事項：○温湯による種子消毒。 ○プール育苗による健苗育成		

- 注) 1. 作業については、前作の収穫終了後から当該作物の収穫終了時までを記入する。
2. 集団の場合、栽培についての申合せや取決めに関する資料を添付する。
3. 農薬等使用区分は、「不使用」「5割以下」等と記載する。

(別紙5)

平成28年産栽培管理計画

1 栽培作物及び場所

作物名	水稻(移植)	栽培面積	2056.9 a
農薬等使用区分	農薬：節農5	化学肥料：化5	

2 栽培管理

(1) 栽培管理計画

時期 (旬、日)	作業名	資材使用 の有無	
9月	米ぬか散布 稲わら鋤きこみ		
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			温湯消毒・種まき・育苗 醗酵鶏糞
3月			
4月			肥料散布・耕起 代掻き・田植え・除草剤散布
5月			畦草刈り 中干
6月			溝切り 手取除草
7月			稲刈・乾燥・調整
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			
計画生産量	111.1 t (540kg/10a)		
看板設置予定	17箇所		
栽培上の特記事項：病虫害の農薬防除は基本的に行わない。 但し天候その他病気の発生によりやむを得ない事情により、防除を 1回認める。			

- 注) 1. 作業については、前作の収穫終了後から当該作物の収穫終了時までを記入する。
2. 集団の場合、栽培についての申合せや取決めに関する資料を添付する。
3. 農薬等使用区分は、「不使用」「5割以下」等と記載する。

(別紙5)

平成28年産栽培管理計画

1 栽培作物及び場所

作物名	水稻(直播)	栽培面積	3813.4a
農薬等使用区分	農薬：節農5	化学肥料：化5	

2 栽培管理

(1) 栽培管理計画

時期 (旬、日)	作業名	資材使用 の有無
9月	米ぬか散布 稲わら鋤きこみ	有 有
10月		
11月		
12月		
1月	醗酵鶏糞 種子消毒	有 有
2月		
3月		
4月	肥料散布・耕起・直播 除草剤散布 畦草刈	有
5月		
6月	手取除草	
7月		
8月	稲刈・乾燥・調整	
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
計画生産量	194.5 t (510kg/10a)	
看板設置予定	25箇所	
栽培上の特記事項：病虫害の農薬防除は基本的に行わない。 但し天候その他病気の発生によりやむを得ない事情により、防除を 1回認める。		

- 注) 1. 作業については、前作の収穫終了後から当該作物の収穫終了時までを記入する。
2. 集団の場合、栽培についての申合せや取決めに関する資料を添付する。
3. 農薬等使用区分は、「不使用」「5割以下」等と記載する。

(2) 除草及び病虫害防除の方法 (農不・化不)

除草の方法	・ 手取り除草・機械除草
病虫害防除の方法	・ 60度で10分間の温湯消毒で健苗育成 ・ 畦畔の草刈をまめに行う

- 注) 1. 除草の方法は、手取り除草や除草機使用等を詳しく記入する。
2. 病虫害防除の方法は、基本的な対策のほか、予想以上に病虫害が発生した際の対応についても含めて記入する。

(3) 種子・種苗の状況入手方法等

- ① 自家採種又は自家採種以外の区別 (○を付ける)

自家採種 ○自家採種以外

- ② 自家採種以外の種子、種苗に対する入手前の化学合成資材の処理状況

ア 化学合成肥料 (○を付ける) 処理 ○無処理

イ 化学合成農薬 (○を付ける) 処理 ○無処理

3 使用資材 (使用が予想される全ての資材を記入する。)

(1) 肥料、土壌改良資材及び堆肥等

資材名	天然・化学系資材の別	使用量 kg/10	時期 (月日)	窒素成分量	うち化学合成窒素
米ぬか	天然	100	10月	0	0
ケイホットオール	天然	200	4月	3.25	0
				1	0
				0	0
				0	0
				0	0
				0	0
				0	0
合 計				3.25	0
					4.0

- 注) 1. 土づくり資材含む。
2. 有機質肥料に化学肥料を含む場合 (配合肥料) の場合は、化学資材と記入する。

(2) 除草及び病虫害防除の方法 (節農5・化5・移植)

除草の方法	<ul style="list-style-type: none"> 成分の少ない除草剤を1回のみ使用 手取り除草
病虫害防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> 60度で10分間の温湯消毒で健苗育成 畦畔の草刈をまめに行う

- 注) 1. 除草の方法は、手取り除草や除草機使用等を詳しく記入する。
 2. 病虫害防除の方法は、基本的な対策のほか、予想以上に病虫害が発生した際の対応についても含めて記入する。

(3) 種子・種苗の状況

- ① 自家採種又は自家採種以外の区別 (○を付ける)

自家採種 ○自家採取以外

- ② 自家採種以外の種子、種苗に対する入手前の化学合成資材の処理状況

ア 化学合成肥料 (○を付ける) 処理 ○無処理

イ 化学合成農薬 (○を付ける) 処理 ○無処理

3 使用資材 (使用が予想される全ての資材を記入する。)

(1) 肥料、土壌改良資材及び堆肥等

資材名	天然・化学系資材の別	使用量	時期 (月日)	窒素成分量	うち化学合成窒素
米ぬか	天然	100	10月	0	0
ファイン千代田 (14-17-12)	化学	0.6	3月	0.08	0.084
醗酵鶏糞 (ファーテック)	天然	150	4月	43.15	0
もしくは					
ケイホットハーフ	天然	180	4月	1.75	0
グリーンペースト	化学	25	5月	3.0	3.0
					0
					0
					0
					3.0

合 計	4.83～ 6.23	3.08
当該作物の認証基準値		4.0

注) 1. 土づくり資材含む。

2. 有機質肥料に化学肥料を含む場合（配合肥料）の場合は、化学資材と記入する。

(2) 除草及び病虫害防除の方法（節農5・化5・直播）

除草の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入水前に茎葉処理1回 ・ 入水後に一発剤使用 ・ 手取り除草
病虫害防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60度で10分間の温湯消毒で健苗育成 ・ 畦畔の草刈をまめに行う

注) 1. 除草の方法は、手取り除草や除草機使用等を詳しく記入する。

2. 病虫害防除の方法は、基本的な対策のほか、予想以上に病虫害が発生した際の対応についても含めて記入する。

(3) 種子・種苗の状況

①自家採種又は自家採種以外の区別（○を付ける）

自家採種 ○自家採取以外

②自家採種以外の種子、種苗に対する入手前の化学合成資材の処理状況

ア 化学合成肥料（○を付ける） 処理 ○無処理

イ 化学合成農薬（○を付ける） 処理 ○無処理

3 使用資材（使用が予想される全ての資材を記入する。）

(1) 肥料、土壌改良資材及び堆肥等

資 材 名	天然・化学系資材の別	使用量	時 期 (月日)	窒 素 成分量	うち化学合成窒素
-------	------------	-----	-------------	------------	----------

米ぬか	天然	100	10月	0	0
醗酵鶏糞（ファーテック）	天然	150	4月	3.15	0
もしくはケイソートハーブ	天然	180	4	1.75	0
マイティコート	化学	33	月 5月	4.62	3.8
合 計				6.37 ~7.77	3.8
当該作物の認証基準値					4.0

注)1. 土づくり資材含む。

2. 有機質肥料に化学肥料を含む場合（配合肥料）の場合は、化学資材と記入する

(2) 農薬（農不・化不）

農 薬 名	成 分 数	使用量	時期 (月日)	対象病虫害・雑草等 名
なし		(希釈倍数 リットル /10a) (kg/10a)		
合 計	0			
当該作物の認証基準値	0			

注) 1. 種子又は育苗に使用された農薬名も記入する。

2. 農薬名が特定できない場合は、〇〇剤、△△剤、××剤のうち1剤とし、成分数はその候補の中で最も成分数の多い数値を記載する。

3. 液剤等希釈して使用するものは、使用量は希釈倍数と散布量を記載する。

(3) その他資材

資材名	天然・化学系 資材の別	内 容	使用目的	使用量	時期 (月日)	うち化学 成分量

注) (1)(2)以外の目的で使用するものを記入(木酢液、ヒバ油、〇〇エキス、ペンキ等)。

(4) 自家製造資材の原料・製造方法

資材名	原料名	製造方法
なし		

注) 1. (1)(2)(3)において該当するものを記入。

2. 資材名は(1)(2)(3)において記入した名称を用いること。

注) 1. 資材は、前作の収穫終了後から使用したものを記載する。

2. 購入資材については、カタログ、説明書等内容がわかる資料を添付すること。

(2) 農薬 (節農5・化5・移植)

農薬名	成分数	使用量 /10a	時期 (月日)	対象病害虫・雑草等 名
タチガレエース粉剤	2	200 g	4月	苗立枯
ポッシブルフロアブル	2	500mL	5月	ヒエ・ホタルイ・
もしくはイッポンフロアブル	3	500mL	5月	アゼナ・オモダカ
もしくはイッテツのうち1剤	3	500mL	5月	
ブラシンフロアブル				
もしくはバリダシン液剤5	2	1000倍で	8月	いもち
もしくはダントツフロアブル	0	140 L 1000	8月	紋枯
使用する除草剤により1~2 剤	1	倍で 140L 5000倍で 140 L	8月	カメムシ他の害虫

合 計	4 ～ 8	
当該作物の認証基準値	8	

注) 1. 種子又は育苗に使用された農薬名も記入する。

2. 農薬名が特定できない場合は、〇〇剤、△△剤、××剤のうち1剤とし、成分数はその候補の中で最も成分数の多い数値を記載する。

3. 液剤等希釈して使用するものは、使用量は希釈倍数と散布量を記載する。

(3) その他資材

資 材 名	天然・化学系 資材の別	内 容	使用目的	使用量	時期 (月日)	うち化学 成分量
なし				(kg/10a)		(kg/10a)

注) (1)(2)以外の目的で使用するものを記入(木酢液、ヒバ油、〇〇エキス、ペンキ等)。

(4) 自家製造資材の原料・製造方法

資 材 名	原 料 名	製 造 方 法
なし		

注) 1. (1)(2)(3)において該当するものを記入。

2. 資材名は(1)(2)(3)において記入した名称を用いること。

注) 1. 資材名は、前作の収穫終了後から使用したものを記載する。

2 購入資材については、カタログ、説明書等内容がわかる資料を添付すること。

(2) 農薬 (節農5・化5・直播)

農 薬 名	成 分 数	使用量 /10a	時期 (月日)	対象病虫害・雑草等 名
クリンチャーバスMEもしくは	2	1000m l	5月	ヒエ・広葉雑草
は	1	200ml	5月	ヒエ・広葉雑草
ノミニー液剤	3	500 m l	5～	ヒエ・ホタルイ・アゼナ・オモダカ
イッポンフロアブルもしくは	3	500 m l	6月	ヒエ・ホタルイ・アゼナ・オモダカ
イッテツ	2	1000 倍で	5～	いもち
ブラシンフロアブル		140l	6月 8月	
合 計	5 ～ 7			

当該作物の認証基準値	8	
------------	---	--

注) 1. 種子又は育苗に使用された農薬名も記入する。

2. 農薬名が特定できない場合は、〇〇剤、△△剤、××剤のうち1剤とし、成分数はその候補の中で最も成分数の多い数値を記載する。

3. 液剤等希釈して使用するものは、使用量は希釈倍数と散布量を記載する。

(3) その他資材

資材名	天然・化学系 資材の別	内 容	使用目的	使用量	時期 (月日)	うち化学 成分量

注) (1)(2)以外の目的で使用するものを記入(木酢液、ヒバ油、〇〇エキス、ペンキ等)。

(4) 自家製造資材の原料・製造方法

資材名	原 料 名	製 造 方 法
なし		

注) 1. (1)(2)(3)において該当するものを記入。

2. 資材名は(1)(2)(3)において記入した名称を用いること。

注) 1. 資材名は、前作の収穫終了後から使用したものを記載する。

2 購入資材については、カタログ、説明書等内容がわかる資料を添付すること。

